

コンクリート打継ぎ面処理剤

ジョイントエース J A - 4 0

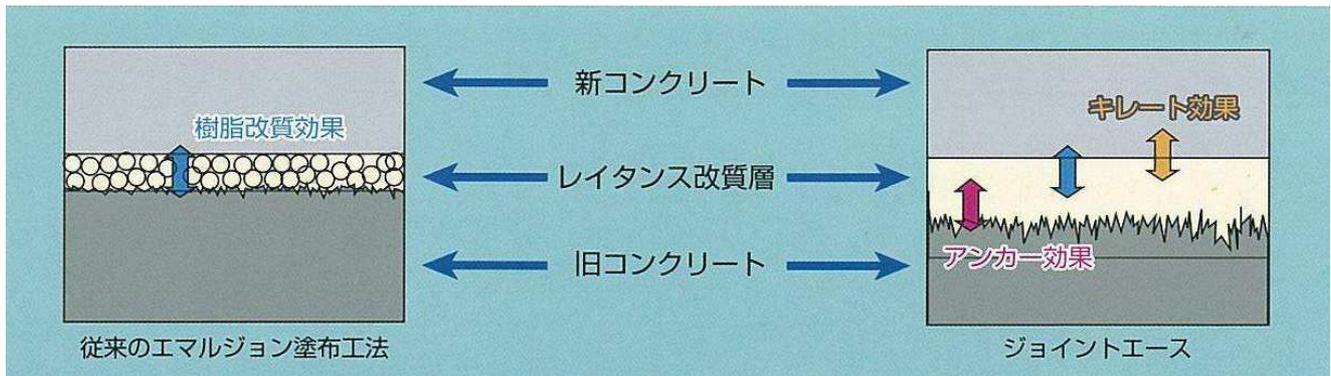


LION

この資料に記載した事項は、十分検討の上でのものですが、実際の生産現場でご使用いただく折は、ご需要家各位様の実状に即した、入念な検討吟味の上ご採用頂きますようお願い申し上げます。また、これらのデータを使用して得た結果及び特許上の問題については、その責を負いかねますので、ご承知おき下さい。ご使用に当たっては、SDSをご参照下さい。

特 長

- 旧コンクリートの打継ぎ面に散布するだけで、レイトンス処理（グリーンカット）工法と同等以上の打継ぎ性能が得られます。
- 新コンクリート打設の前処理が不要で、スラッジ水等の副産物が発生しません。
- 現場において安定した打継ぎ性能が出ます（ヒューマンエラーを低減します）。
- 鉄筋との付着性を阻害しませんから、鉄筋密度の高い箇所でも使用可能です。
- アクリル樹脂を主成分としているため、膜養生剤としての効果もあります。



性 状

項 目	規 格
外観（25℃、原液）	乳白色液体
粘度（25℃、原液）	4～100mPa・s
pH（25℃、原液）	7.0～9.0
比重（25℃、原液）	1.03～1.07
蒸発残分（%）	39.0～41.0

荷 姿

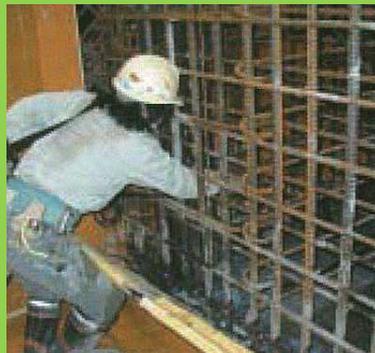
- 18kg 石油缶

標準的な使用状況

ジョイントエース散布前



ジョイントエース散布
(ブリーディング終了時)

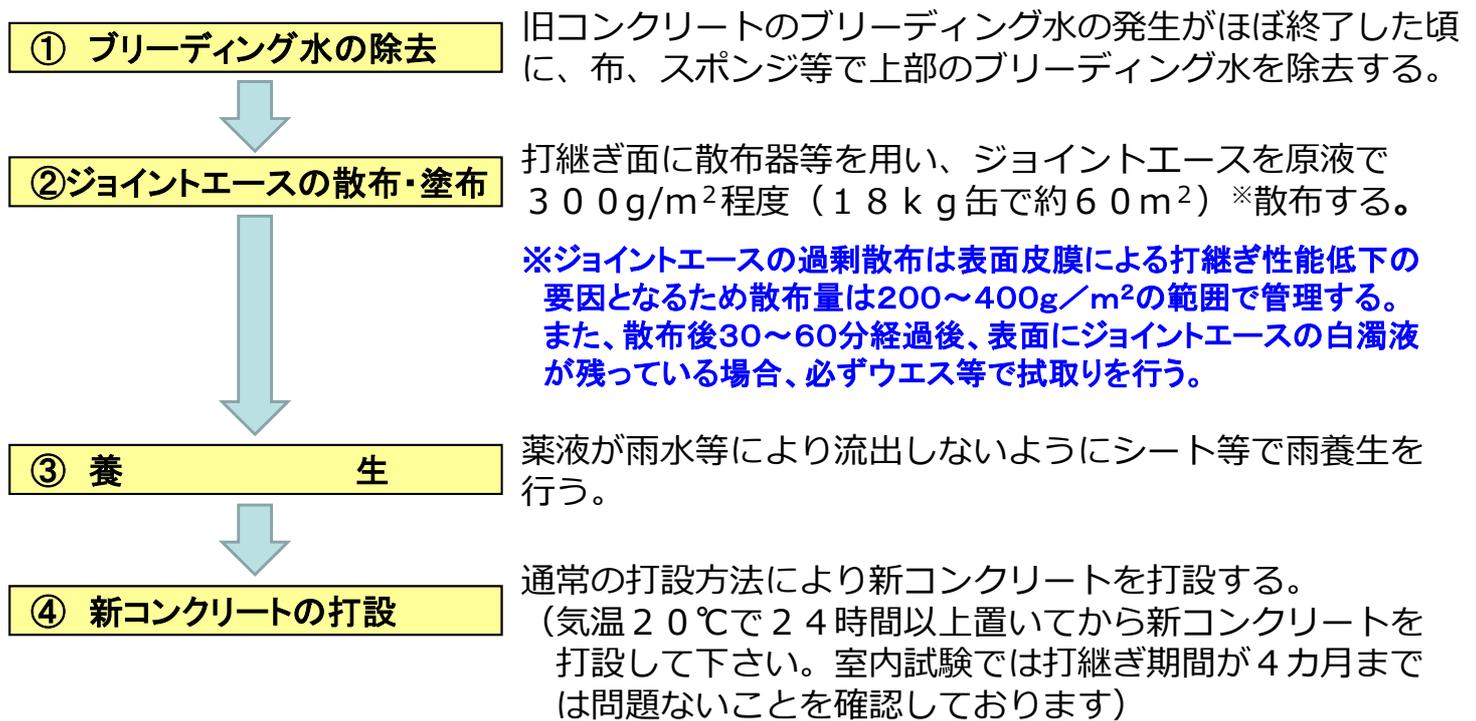


ジョイントエース散布後



標準施工要領

- ジョイントエースによる打継ぎ処理の標準施工手順は以下の通りです。
(詳しくは別紙「標準施工手順」をご参照下さい)



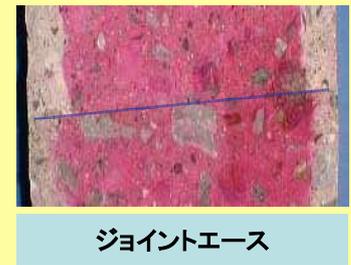
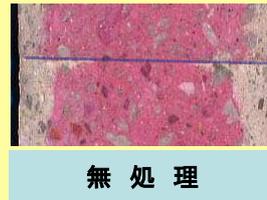
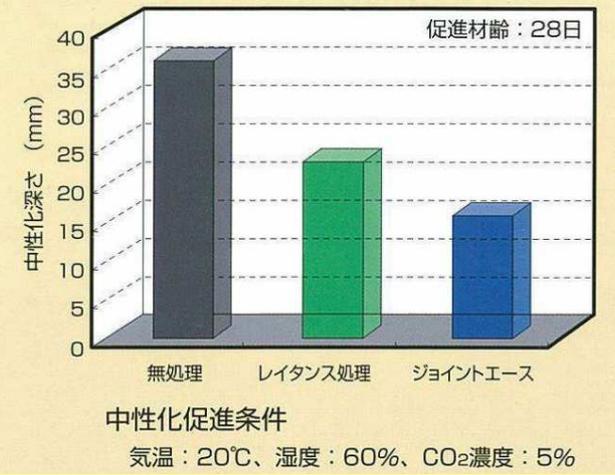
注意事項

- ジョイントエース使用時：
 - ・呼び強度 $40\text{N}/\text{mm}^2$ 以上※1あるいはノンブリーディングコンクリート※2の配合ではジョイントエースの浸透が阻害される場合がありますので、事前に浸透性を検討して下さい(検討方法については「ジョイントエース簡易浸透性確認試験方法」を参照して下さい)。
※1：W/C:40%以下、※2：単位水量 $165\text{kg}/\text{m}^3$ 以下の配合を目安にして下さい。
 - ・強風や直射日光等の気象条件等により、翌日のコンクリート表面に成膜が確認された場合(下写真参照)は直ちに膜を除去して下さい。
(その後の処理については「施工確認方法」を参照して下さい)



- ・レイトランス処理(グリーンカット)に比べ剪断力が低下する傾向にありますので、無筋コンクリートでの使用の際は事前に確認を行ってください。
- 取扱い：皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないようにして下さい。
- 保管：
 - ・直射日光を避け、 $0\sim 40^\circ\text{C}$ で保管して下さい。
 - ・使用後の残液は缶を密封して保管して下さい。

【1】 耐久性（耐中性化）



【2】 打継ぎ部の曲げ強度

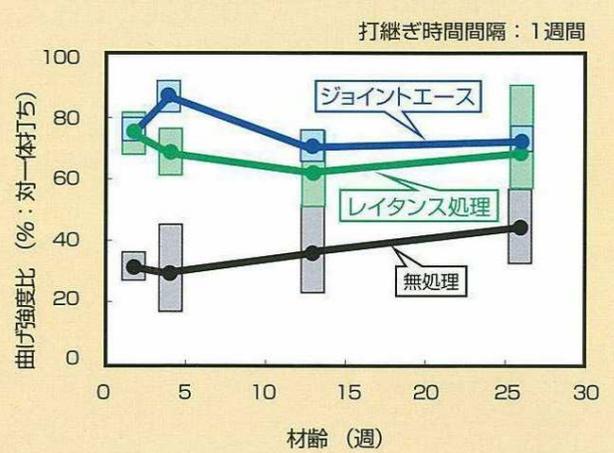
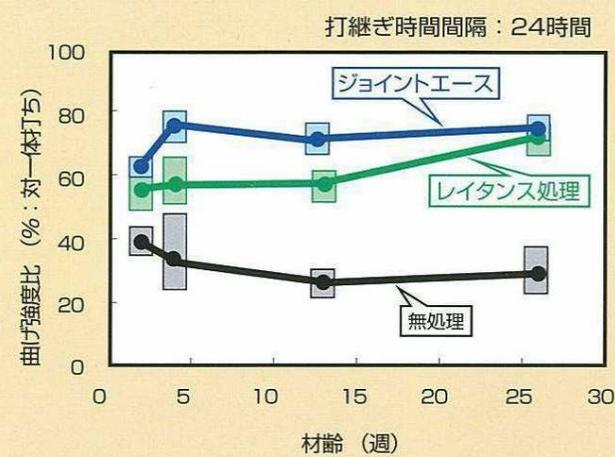
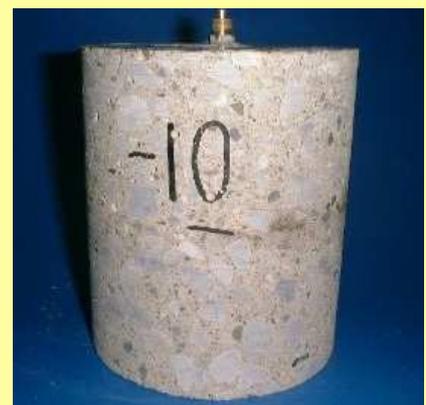
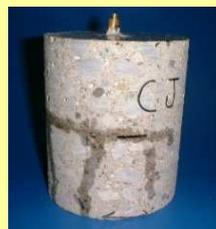
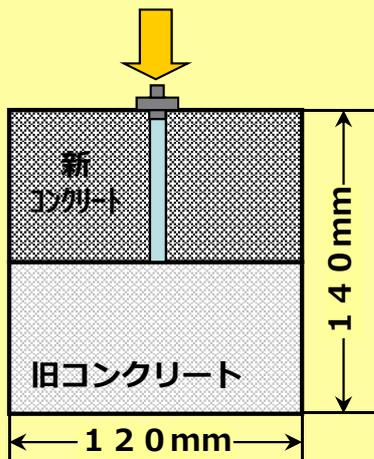


図-1 打継ぎ部分の曲げ強度比(若材齢打継ぎ)

図-2 打継ぎ部分の曲げ強度比(一般材齢打継ぎ)

【3】 水密性

水圧：0.5MPa、6時間



*) 当製品は防水材料ではございません。